

ジョジョからの手紙 — 勤続 10 年によせて —

いつも紙面で「ジョジョ」と呼ばれている CMIP の助産師さんの本名は、ジョセリン・トリポリさんといいます。夫と小学生の女の子の 3 人暮らしです。ジョジョが CMIP に勤め、HANDS とともに仕事をするようになって、もう 10 年。この機会に心に残る出来事を振り返っていただきました。

CMIP のヘルス部門で働くようになってもう 10 年。私の善意と献身が報われるのを見るとき、本当に幸せを感じます。「善意と献身」という訳は、先住民族の村に行くことは冗談でなく、高い山を登り、数多くの川を渡り、道に点在する山賊に出会わないようにしなければならないからです。命がかかっているのです。

献身の成果を振り返ると、ネフローゼのレオポルド君が思い出されます。当時 10 才のこの患者は私が初めてキアミ村に行ったときに出会いました。症状は呼吸困難と顔や手足のむくみでした。希望の無い患者とさえまさしく彼のことでした。しかし HANDS が手を差し伸べてくださったおかげで、レオポルドは現在健康になり、将来に向けて勉強を続けています。これは HANDS の支援のたまものです。

2003 年にキアミ村で起こったマラリアは致命的な重大事でした。隣接のシラル村、アブガンボルール村とともに患者たちは、高熱、頭痛、食欲不振、めまい、体重減少に苦しみ、青ざめていました。彼らにできることは薬や食べ物や交通費が無いにもかかわらず、病院に行くことだけでした。そのとき CMIP は余分な資金が無く、食べ物を用意することしかできませんでした。これも HANDS の救いがなかったら彼らは間違いなく亡くなっていただいでしょう。2004 年には蚊帳を購入する資金を支援していただきました。その後ずっとこの地域をモニタリングしていますが、マラリアによる死者は出ていません。完全に撲滅されたと考えています。住民は心優しく思いやりのある HANDS の会員とスタッフの皆さんに感謝してもしきれません。ここに心からのお礼を述べたいと思います。

リウマチ性心疾患だったヘルメニアのことも忘れることができません。この患者はとてもやせ細っていて、青ざめ、肌は黄みがかっていました。呼吸は苦しく、倦怠感に悩まされていたのです。しかし彼女の両親はこの病気は魔女の呪いだと考え、ヘルメニアを呪医のもとに連れて行って行っていました。もちろん治るはずはありません。村のヘルスワーカーのリジャが、ヘルメニアをクリニックに連れてきました。私たちは心臓専門医に診察を受け、外科手術が必要なリウマチ性心疾患が発見されました。検査の結果、体調が良くないときもあり、最終的に 2007 年 10 月にマニラのフィリピン心臓病センターにて手術を受けました。私も立ち会いましたが、ヘルメニアは手術を耐え切ることができました。今では程よく体重も増え、健康を取り戻しています。

HANDS のおかげで毎月の無料巡回診療と保健衛生セミナー、子どもたちの虫下し、薬草園の指導が可能になっています。住民は神が皆さんを使わしたのだ、ととても感謝しています。これからもミンダナオの貧しい人々のためのご支援をよろしく願います。

ジョセリン・トリポリ (抄訳: 九島)



ゼネラルサントス市内の赤十字病院にて。PIHS の保健ボランティア・サラさんの手術のために宗教を超えてジョジョも協力してくれた(P4 の記事参考)。左からジョジョ、九島、PIHS ボランティアのシャリパ、同じくバイ